

職員による自己評価

A環境面

- ・事業所が2階にあり、入所するまでの階段が急である。
- ・訓練室内がいびつな形をしており、職員配置を考えないと目の行届かない時がある。
- ・トイレが一個なので、タイミングがかぶり、児童に我慢をさせてしまう事がある。

B児童への支援内容

- ・事業所内、児童に関しての情報共有が足りない。
- ・支援級児童と養護学校児童が混在する中、プログラム内容によって差が大きくなる。

C関係機関との連携

- ・役職者以外、連絡を取る事がない。
- ・学校職員と話す機会が減ってしまい、児童の様子が把握できない状態で受け入れる事がある。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・送迎時での口頭説明を行っているが、時間も限られている為、手薄になってしまう事もある。

E非常対応

- ・年に2回、避難訓練週間を設け、実施している。
- ・事業所が2階の為、昇降訓練に不安を感じる。

保護者による評価

A環境面

- ・事業所が2階にあり、そこに繋がる階段が子供にとっては急に感じる。
- ・事業所に繋がる通路が暗い。
- ・大きな一部屋で過ごすので職員さんの目が届いているのか不安を感じる時がある。

B児童への支援内容

- ・連絡帳や送迎時に話したことが伝達されていないことがあり、不安を感じる。
- ・予定表を提出したり、変更があれば連絡しているのに、職員さんの中で共有されていない。
- ・特記事項があった時、お電話や役職者の方が対応してくれて安心する。
- ・子供の事をよく観察してくれていると感じます。

C事業所からの情報発信

- ・連絡帳、送迎時にお話ししてくれて様子が分かります。
- ・ブログ、楽しみに見えます。
- ・月一の新聞で子供がどのように参加しているのか、全体の雰囲気がわかって楽しみです。

D非常対応

- ・避難場所・避難経路がはっきりわからない。
- ・実際起きたことがないので、よく分からない。

事業所内での分析

【共通点】

- ・保護者様からの、希望・要望・伝達内容が共有されていない事がある。
- ・共有不足により、支援内容に差が出てしまっている事がある。
- ・訓練室にいる際、目の行届かない場面が少なからずあると感じる。

【相違点】

- ・非常災害時の対応、周知について。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・事業所オープン当初から長く勤めてくれている職員がいる。
- ・個別支援計画に基づいた支援が出来るよう、細かな支援方法を話し合っている。

事業所の改善点

- ・コロナ対策が充分なのかどうか
- ・事業所の窓の飛散防止シートがはがれてしまっている
- ・壁の穴があいてしまっている。
- ・報連相の抜け漏れ

事業所の改善への取り組み

- ・コロナウィルスの感染防止対策の徹底
→職員(マスク着用・検温・手洗いうがいの徹底)
→児童(マスクは出来る限りしてもらおう・検温・手洗いうがいの徹底・食事時の座席配置を同一方向に変更)
- ・申し送り表を作成し、職員がお休みだった時の情報が目で見てわかるように変更。
- ・整理整頓、清潔を保てるよう、日々気づいた事を伝えていく。
- ・避難訓練・経路について、年 2 回行う避難訓練週間時に保護者様にも最新の情報をお伝えしていき、書面での避難経路をお渡りする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

昨年に比べて、低年齢児童が増えたり、職員の異動があったりと変化の多かった中で保護者様からの信頼を失う事無く運営、活動出来ていることは喜ばしいことだと感じています。事業所のハード面では改善出来る事が限られてしましますが、児童の支援に関しては保護者様からの希望や児童本人の気持ちを大切にして鶴見矢向として出来る事を最大限活かしていけるよう尽力いたします。

コロナ禍の中で不安がないわけではない中、通所して下さる児童の笑顔を守れるよう、安全第一な事業所作りをしていきたいと思っております。

事業所名 ライズ児童デイサービス鶴見矢向

担当者 鈴木 まどか